

けやき会

第8号

埼玉大学教養学部同窓会だより

けやき会の皆様へ

けやき会会長 榎木 誠
(70年卒 中国文化)

お元気に活躍のことと存じます。1991年に発足した教養学部同窓会(けやき会)は、各界で活躍される教養学部と文理学部人文学科の同窓生約6000人のネットワークを強め、会員間の親睦を深めることを目指した活動を続けてきました。会員間のネットワークと親睦の和をさらに広げることが

平成22年度
けやき会総会決定

- ・ 6月19日(土) 午後2時
- ・ 埼玉大学学生会館 3階講堂
- ・ 懇親会: 学生会館2階きやら亭
- ・ 講演会も予定しています

埼玉大学教養学部同窓会 けやき会

ホーム
ニュース
会員名簿
リンク
会報「バックナンバー」
経歴
各種問い合わせ

このホームページは、同窓会の会員みなさまの両方の情報交換の場、自由な意見の場として積極的に活用していただくことを目指しています。

6月13日(土) けやき会総会 於: 埼玉大学

目指して、2009年6月には「けやき会(教養学部同窓会)ホームページ」を立ち上げることができました。このホームページは、同窓会の会員や教官の方々の双方の情報交換の場、自由な発信の場、相互交流を深める場、さらに教養学部の最新の動きを伝える場として、積極的に活用していただくことを目指しています。すでにホームページを立ち上げている他学部の同窓会や全学同窓会連合会、埼玉大学や教養学部などのリ

ンケージも進めながら、使

い勝手の良いホームページにしていきたくと考えております。会員のみならず積極的に活用されることを願っております。

けやき会ホームページ開設 www.keyakikai.net/

けやき会のホームページが、昨年開設されました。同窓会関連情報のほか、大学や先生方の情報も順次掲載。ぜひ一度ご覧ください。皆さんから info@keyakikai.net への投稿もお待ちしております。



保護者会で就職情勢を話す会長

化させることを目指して、今年6月に大学構内の学生会館でけやき会総会を開催し、同窓会会員相互の交流、親睦を深めたいと考えています。また大卒者の就職環境が厳しさを増す中で、在学生の就職活動を支援するために卒業生会員の皆様のご協力の下に「就職セミナー」の開催など様々な就職支援活動を強める計画です。会員の皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

2009年度教養学部入学案内のデータより抜粋

2009年度入学者選抜実施状況

定員	日程	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
160	前期	125	440	412	152	172
	後期	35	201	200	93	(うち女子110)

2008年業種別進路先 (上段は全体、下欄は女子)

製造	運輸通信	飲食小売	金融保険	不動産	サービス	教育	公務	他	大学院
20	28	23	28	1	23	10	14	3	17
1	19	19	20	1	14	3	7	3	

出身校の所在地別入学者数

	2007年度	2008年度	2009年度
北海道	4	2	3
東北	37	46	32
関東	85	72	102
(うち埼玉)	30	28	41
中部・近畿	36	27	17
中国・四国	6	10	4
九州・沖縄	5	15	10
外国・検定等	10	5	8

転退職される

先生の言葉

安達忠夫先生



(ドイツ・北欧文学)

わたしの「受」業

埼玉大に赴任してきたは三十数年前のこと。新米の生意気教師をとつちめてやろうと、生きのいい学生たちが手ぐすね引いて待ち構えていました。そのつど入念に予習して、教師が返事に困るような難問ばかり、容赦なくぶつけてきます。ついにお手上げで、誰か意見はありませんかと助けを求めると、してやったりとほくそ笑む顔があちこちに見えました。当方としてはそれも計算済み、といったゆとりなどまるでありません。何とかしのぐ工夫を重ねてきました。冷や汗三斗、定年間の今も似たようなものです。

当時は大学のすぐ近く埼玉大の別所官舎などに住んでいたため、研究室に四六時中いて、他の教官や学生と

も長時間話し込んだものです。そのうち気がついてみると、5指に余るほどの委員会に名を連ね、いくつか委員長まで兼任するようになっていました。そのまま行けば、(冗談ではありません)学部長か学長にでもなっていたかもしれませぬ。でも幸いなことに、まず2年間のデンマーク留学が認められ、帰国後は新潟国境に近い遠方に引っ越して新幹線通勤。おまけに再度、(通例は2か月のはずの)文部省在外研究が5か月も認められました。

委員会の責務を大幅に免除され、学内行政から完全に退いた(お払い箱になった)お蔭で、わたしとしては研究面でも、教育面でも、執筆面でも、集中することができたわけです。苦行にも等しい教授会が終わって、国境のトンネルをくぐり抜け、家路につけば、犬といっしょに山野を歩きまわります。しかしその分、学生たちにも同僚や事務の方々にも、多大な御迷惑をおかけしてきたことでしょう。永年ひたすら恩恵を「受ける」ばかりだったことに感謝しつつ。わが杯はあふるるなり。

菅野峰明先生

(地理学)



地理学コースの巡検

33年間勤めた埼玉大教養学部を定年で退職することになりました。着任してからしばらくの間、今は亡き新井壽郎先生と2人で地理学コースを担当しました。地理学コースは1学年10人未満の少人数で、教養学部棟の地理学実験室と呼ばれる、コースの部屋がたまり場でした。そこにコースの2年生から4年生までが集まって談笑、読書やレポーターの作成をしていました。地理学コースには地理学野外実習という授業科目があり、これが別名巡検と呼ばれるものでした。これは現地での地理的事象の観察を学び、その意味を体験することを目的として、毎年11月に日本各地に3泊4日の日程で行われていました。学部の3年生の必修科目でしたが、コースの2年生・4年生も参加していました。から、地理学コース全体の巡検でした。遠いところは岩手県の遠野・盛岡、四国の松山・宇和島などに出か

けました。

巡検に出発する前には訪問する地域について予めテーマごとに文献を調べて巡検案内を作成することが学生に課されていました。訪れた場所では作成した案内を手にしながら観察し、時には地元で詳しい人の説明を聞き、夜になるとその日に観察した事象の意味を発表し合うミーティングが開かれました。学生は自分の経験と知識を基にして観察したことの意味を説明するのですが、なかなか本質的な意味を捉えることができない場合が出てきます。その時に我々教師が助け船を出します。我々も前もって巡検に行く地域に関する本を読んで、観察する事象の意味は頭に入れてありますので、それを用いて学生の



1989年、富山県五箇山合掌集落へ巡検

理解を助けます。現地での事象の理解は学生にとつて大きな経験になったことと思います。

夜のミーティングが終わるとコンパです。宿泊先への途中で買い入れた酒つまみでおしゃべりが続きます。ここでの学生との触れ合いによって、教室では分からなかった学生の個性や長所を発見することもありました。しかし、我々教師はたいがい夜中の零時まで自分たちの部屋に帰って寝てしまいました。学生たちのおしゃべりは夜中の2時・3時まで続くのが常でした。巡検での学生同士の交流は学生たちにも良い思い出になっていくようにして、卒業生に会うと巡検の思い出話をよく聞きます。

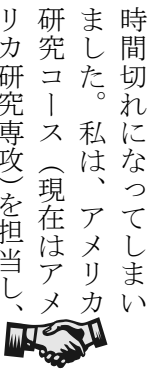
有賀夏紀先生

(アメリカ研究)



教養学部での二つの願い

教養学部へ赴任してからの30年間、毎回授業が終わるたびに、来週こそはもっと良い授業をと思いつながら、次の週が来て同じ反省を繰り返しかえしているうちに、今、



時間切れになってしまいました。私は、アメリカ研究コース（現在はアメリカ研究専攻）を担当し、アメリカ史を英語の教材を使って教えてきました。

学生の学力が向上すること、社会のことも考える人になることを願って教えてきたつもりです。また同時に、教養学部での生活を通して人的繋がり、つまり「ソーシャルキャピタル」を作ってもらいたいとも思っていました。

学力向上の願いについていえば、赴任当初は恩師の「学生と雑巾は絞るほどよい」という言葉の実践さながら、学力優先でただがむしやりに教え込もうとしていたような気がします。それでも初めのうちは、「絞られたいから」と学生はアメリカ研究に入ってきてくれましたが、いつ頃からか「厳しいのはご免」と逃げていくようになりました。いくらか手ぐすね引いて待っていても肝心の学生がいなくては何もなりませんから、私も絞ることはやめました。一度ももらった「厳しい」という評判（悪評）は消えないようです。実際は評判だ

けなのですが。でも最近再び、「厳しき」を求めてアメリカ研究専攻に入ってくる学生が増えてきたことは心強い限りです。

「ソーシャルキャピタル」は、これを文字通りに訳して「社会資本」といつてしまおうと上下水道などの公共施設の意味になってしまいがちですが、そうではなく、人の繋がりを作り出す、社会で生きていく上で有益な財産のことです。ロバート・パットナムの『孤独なボウリング』（2001年）で有名になった言葉ですが、民主主義の維持のためには共同体が重要であり、これは人的繋がりというソーシャルキャピタルが基盤になっているというのです。

ソーシャルキャピタルは功利的にいえば就職にも生かせますし、社会的には政治参加の基盤にもなります。具体的には、同窓会などもこれに当たると思います。勉学を通しての共通の体験を通して築いた学生たち相互と教員の間の人的繋がりを、ソーシャルキャピタルとして生かしていけるよう教養学部同窓会の今後の発展を願っています。

同窓生から

益子での生活

川辺（野村）幸代

（教養2回生・現代1類）

益子に移り住んで32年になりました。

30年前、夫と登り窯をかまえて独立してからは、やきものを作り、それを売って生活をするという単純なことを繰り返してきたわけで我ながらよくやってきたなあと思います。始めは心細かった山の中の生活も今は住めば都です。

教養学部在籍していた頃はやきものとは何の関係もありませんでしたので、その頃の知り合いにはどうして陶芸を？と聞かれます。ちよっとおかげさなのですが「何かを自分の手で作り出したい。」と願ったことでしょうか。

卒業するときには当時のゼミの小菅稔教授の紹介で秋葉原の大同毛織という会社に就職が決まっていたのですが、どうしても自分には合わないような気がしてお断りしました。ちよっと苦

い思い出です。

その後は先日亡くなった文化人類学者川喜田二郎氏の主催する「移動大学」を手伝ったり、北中米をしばらく旅行したりしたあと、米国でやきものに出会いました。日本にいた頃は見るだけのものだったやきものが、その頃住んでいたフィラデルフィアではもっと身近で、自分で作ることもできるものだったのです。帰国してから伝手をたより益子に移り住みました。

つい最近まで我が家のように個人の陶芸家たちの窯が益子には400〜500軒ありました。過去形で話すのは現在少し減っているのではないかと考えられるからです。やはり昨今の不況の影響でやきものだけ



登り窯

で食べていくことが難しくなっているのです。でも若い人たちは今でもたくさん入ってきます。田舎でゆっくり暮らしたいと考える人たちに益子はいつも寛大です。

教養2回生の女性はやきもの好きです。日本文化の中野弘美さんは千葉駅のすぐそばにもう25年も「おにた」というやきもののお店を経営していますし、外資系の会社を早期退職した別の同窓生は我が家の近くで陶芸にたずさわって7年になります。

私も今年の末に日本橋室町の「ギャラリー開」で夫との二人展をいたします。よろしかったらぜひ見に来らしてください。

「川辺陶房」

栃木県益子町芦沼 216-10

0285-72-5969

kawabe.s@knd.biglobe.n

e.jp

「おにた」

千葉市中央区弁天 2-23-1

弁天プラザ 0432-53-1214

「ギャラリー開」

中央区日本橋室町 1-13-14

<http://www.kai.ac>



文化人類学

研究室から

卒論を書き上げて



藤田有紀 (4年)

去る1月、私は卒論(テーマはインドネシアの焼畑農業の人類学的考察)の提出を終えました。この卒論の完成に至るまで、たくさんの方々にお世話になったこと、そして自分自身が何度も行き詰りながら卒論のテーマと向き合ってきたこともあり、感動も一入でした。私は2年生まで、埼玉大学工学部に在籍していました。入学後、そこでの学生生活に悩みを持つようになり、先生や親と相談を重ねた結果、教養学部への転学を決めました。不安でいっぱい私の心を温かく講義に迎え入れてくださった先生方のお言葉は、今でも忘れられません。

学ぶ2年間で充実させるために、私はある目標を立てました。それは、転学時に先生から頂いた文化人類学の参考文献リストの中から、少しでも専門文献を多く読んでいくというものです。この習慣を通して私は、少しずつインドネシアという国や、環境利用の問題、農業の問題へと関心を集約させるようになりました。この関心を、今の私にできる最大限の努力で結実させたのが、今回の卒論でした。これを書き上げるのは非常に苦しかったですが、その過程で励ましてくれた家族、友人、先生方の存在があったからこそ頑張れたのだと思います。

特に就職活動の際、転学に引け目を感じていた私に、「それだけ夢中になれる勉強に出会えたんだから、今までの経験も堂々とアピールしなさい」と言ってくれた母には、卒論を書く際にも何度支えてもらったかわかりません。埼玉大学で学んだことは、今後の人生にも必ず役に立つと胸を張ることができます。そして、私たちと同時代に生きる世界の人々への関心は、文化人類学専攻の学生という立場を離れても、常に持ち続けていきたいと思えます。

現役生から

入学して

山田純也 (1年)



私が埼玉大学に来たのは、「社会学」を勉強したいと思ったからです。それまでは商学部単科の大学に通っており、充実した日々を過ごす傍ら、自分のやりたいことができていくか自問自答することもありました。そんな中辿り着いたのが埼玉大学で、実際にキャンパスを訪問した上で、一抹の不安も覚えつつ試験を受けることを決意しました。

埼玉大学は比較的学部の垣根が低い大学だと思います。それが入学の1つの特徴でもあったわけですが、単科大学に身を置いていた者としては、講義数の多さから、他学部の講義を受講することは可能ではあるものの、あまり現実的ではないように感じ始めています。また一方で、教養学部の性質上、社会学を中心に据えたものではないために、ここでも本当に自分のやりたいことができるのか、そもそも社会学を学ぶことに何の意義があるのか、自問する日々は続いています。

私大に通う友人から聞く話だと、授業中の私語が多いなど、授業に集中できる環境にないということもあるそうです。講義を重ねるごとに受講者数が減少していくということが本学でも残念ながら少なからずあります。授業に集中したい人が集中できる環境があるということは、他の大学と比較すると、恵まれていると言いきななかもしれません。

北海道出身の私にとって、雪のない年越しはかなり違和感がありました。摂氏10度を超える最高気温に初冬のような錯覚を感じつつ、吹きすさぶ風のように流れていく時間にしがみつこうように、充実した日々を送っています。

発行者

埼玉大学けやき会

(埼玉大学文理学部文学科・人文科、教養学部同窓会) 会長 榎木誠 編集担当 関根増男

事務局 〒358-8570

さいたま市桜区

下大久保 255

埼玉大学教養学部内

Eメール

Info@keyakikai.net

埼玉大学けやき会決算報告

(2008年4月1日~2009年3月31日)

収入	繰越金	2,347,072円
	入会費・寄付(郵便振替)	1,310,910円
	入会費・寄付(現金)	45,000円
	雑収入(利息)	1,468円
	懇親会会費	205,000円
	計	3,909,450円
支出	「同窓会だより」印刷費	32,750円
	同窓会連合会会費	200,000円
	総会費	1,059,036円
	名簿買取代	307,800円
	会議費	46,109円
	事務費	24,132円
	計	1,669,827円
残高		2,239,623円
2009/3/31	内訳	
2009/3/31	郵便振替	1,258,940円
2009/3/31	埼玉りそな	735,761円
2009/3/31	郵便貯金	182,857円
2009/3/31	現金	62,065円

2009年6月13日

会計担当 関根増男
会計監査 武井 尚